Pick up!

VARIOUS PLACES

ボンクリ・フェス 2023

“Born Creative” Festival 2023

アーティスティック・ディレクター：藤倉大

©Alf Solbakken

世界中の「新しい音楽」が集まるフェス、今年も開催！

生演奏＋映像、世界初演を含むコンサートや多彩なワークショップを体感しよう！

今年で7回目を数える『ボンクリ・フェス』が、7月7～8日に開催決定。アーティスティック・ディレクターの藤倉大と、スタート時から演奏と企画の両面でコラボレートしてきたアンサンブル・ノマドは欠かせない存在だ。そんなノマドから見たボンクリの魅力とは？ メンバーに話を聞いた。

「藤倉さんは自分で作曲するだけでなく、誰がどういった面白いことをやっているか、つねにアンテナを張っていて、しかも突出して優れたバランス感覚の持ち主です。『ノマドの部屋』のプログラムは、ぼくと藤倉さんが“こんな面白い作品を見つけた”といったやり取りをしながら決めていくのですが、藤倉さんからは“女性の作曲家やヨーロッパ以外の作曲家を入れたい”といったリクエストもありました。そうやって広く世界を見渡せるフェスを池袋で開催できるのは、彼のセンスあってこそだと思います」（佐藤紀雄／音楽監督）

自身が出演するプログラム以外も巡ってボンクリを楽しみ尽くしているという中川賢一（ピアノ）はこう語る。

「コンサートの形をとっているものとそうでないもの、アコースティック音楽と電子音楽、ステージ上に演奏者がいるものといないもの……あらゆるスタイルが共存していますよね。スピーカーから流れる音をホールで聴く『大人ボンクリ』なんて、外からその風景を見たらかなりシュール。赤ちゃんから入場できる『ワークショップ・コンサート』もあるし、疲れたら『電子音楽の部屋』でぼーっとするのもいい。アトリウムを歩いていたら邦楽の即興演奏をしていたりして、なにかしら面白いものがある。あらゆる意味でオープンなところが魅力です」

スペシャル・コンサートで大友良英との即興を披露してくれた子どもたち（通称ノマド・キッズ）は、今年も登場するのだろうか？

「出演する予定です。ボンクリがはじまって6年経っていますから、子どもたちの成長には目を見張るものがあります。はじめは楽器を持って、決まったところで鳴らすというだけのことが、だんだんと“こういう音を出そう”と思うようになって、自分の表現になっていく。その変化を見ているのがすごく面白いですね。そして子どもだけでなく、聴いている大人もまた、音に対する意識の変化をすべてのプログラムで体験できるのがボンクリならではだと思います」（甲斐史子／ヴィオラ）

今年のプログラムの詳細は、取材時点ではまだ発表されていないが、スペシャル・コンサートでの最大の目玉は映像とのコラボレーションだという。

「大ホールで巨大なスクリーンに映し出される映像は迫力がありますし、聴き手だけでなく、演奏している我々も映像から影響を受けて、演奏や音色が変化していくのはないでしょうか」（佐藤）

誰もが自分のペースで自由に楽しめるフェス、ぜひお出かけを。

取材・文：原典子（音楽ライター／編集者）

アンサンブル・ノマド　photo by Maki Takagi

■ボンクリ前夜祭　7月7日㊎
ヴァイオリンとモーション・センサーの部屋
出演：木村まり

■スペシャル・コンサート A面
7月8日㊏　コンサートホール
ドゥ・ユン／スロー・ポートレーツ（日本初演）
藤倉大／尺八協奏曲（アンサンブル版世界初演）ほか
出演：アンサンブル・ノマド、小濱明人（尺八）

■スペシャル・コンサート B面
7月8日㊏　コンサートホール
大友良英／新作（世界初演）
ヤスナ・ヴェリチュコヴィッチ／リモート・ミー～2つのリモコンと3つのコイルのための～（日本初演）ほか
出演：アンサンブル・ノマド、ヤン・バング（エレクトロニクス）
アイヴィン・オールセット（エレキギター）
レベッカ・ヘラー（ファゴット）
ノマド・キッズ ほか

ほか

特設サイト
https://www.borncreativefestival.com/